温故知新 （封建社会のはじまり）

モンゴル帝国と元

モンゴル人は、モンゴル高原（中国の北）で部族に分かれて遊牧生活をしていた。

↓

↓

１３世紀初め　（　　）が、他の部族を従え、
モンゴル民族を統一した。

↓

↓

勢いにのり、騎兵隊をひきいて東西に征服を進めた。

↓

↓

子・孫も征服地を広げ、東は（　　）、西は（　　）・（　　）にいたる広大な［　　］を築いた。

その大帝国のうち、（　　）の孫の（　　）によって、中国とモンゴルの地に作られた王朝が［　　］である。

↓

↓

［　　］は、中国北部に続き、（　　）に侵入
（３０年近くかけて従えた）

↓

↓

日本も従えようとした。
［１２６８年、日本の服属を求める］

モンゴル帝国とチンギス＝ハン

金帝国下にあった遊牧民の中からテムジン（後のチンギス＝ハン）が全モンゴリアの統一者として台頭した。１２１５年金帝国の都燕京（北京）がチンギス＝ハンの率いる騎馬隊に落とされた。彼は固有の軍隊組織を形成し、強大な独裁権力を作り上げ、やがて東アジアの情勢を左右する人物となった。

元とフビライ＝ハン

１２６０年フビライ＝ハンは即位してからも、南宋攻略は続けられたが、南宋の複雑な地形、水上戦を不得意としたことが影響し、戦果をあげることはできなかった。そこで武力を背景とした懐柔外交へ転換した。高麗に対しては、都と遼東を結ぶ「站赤（しゃむち）（いわゆる駅伝制）」を他の征服地と同様設置した。これは、「一定の交通路に駅をおき、周辺の住民に賦課して駅舎・車輌・食料などを用意させ公用の使者に自由に使わせるもの」。南宋攻略の方策としては、宋と往来している日本との通好を求めた。日本遠征に先立ってフビライは国号を大元と改めた。